葛飾北斎・富嶽三十六景

――潮来市

潮来市の北利根川沿いにある「水郷北斎公園」は江戸時代を代表する浮世絵師・葛飾北斎にちなんだ公園です。北斎を語る場合には欠かせない代表作「富嶽三十六景」のシリーズ作品のひとつ「常州牛堀」が描かれた地と言われています。

「常州牛堀」は真冬の霞ヶ浦に浮かぶ苫船（とまぶね）を大きく描き、遠方に雪を抱いた富士山を配置した北斎ならではの大胆な構図が目を引きます。

この絵は白と藍色を基調にしていて、いやがおうにも凍ついた冬の冷たい風景が目に飛び込み、今の時期にマッチした作品となっています。

江戸時代、霞ヶ浦は富士山を眺めるのには絶好の鑑賞ポイントだったようで、北斎は牛堀から眺める富士を作品の一つに選んだのです。



では、北斎が本当に牛堀の地を訪れたのでしょうか？

「富嶽三十六景」は北斎が50歳の頃に制作した作品です。北斎の画歴を振り返ると「千絵の海」というシリーズがあり、そこには「総州銚子」「総州利根川」の作品が残されています。当時としては90歳という長寿を全うした不出生の画家・北斎が茨城の地を訪れても不思議ではありません。

「常州牛堀」のモチーフとなった場所に整備された公園は芝生の公園として釣り人などに人気の観光スポットになっています。冬場、気象条件が良い時には、いまでも富士山を望むことができます。また、夏は、花火大会で賑わう場所で、近隣には大谷石作りのオシャレな飲食店もあり、毎週土曜日には、新鮮野菜の朝市も開催されます。

澄み渡った冬空の下で、富士山を望める場所を探していたら、永山地区などで富士を望めるスポットを発見！ぜひ、あなたならではのビューポイントを探してみてください。





【問い合せ】水郷潮来観光協会　TEL.0299-63-3154
【所 在 地】潮来市牛堀26-1
【アクセス】国道51号北利根橋そば

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく
ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社
本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215（大代） http://www.ibaraki-isuzu.co.jp